

FOR ADLUT



そしてゆるやかな

南国鎮守府の

なんごくちんじゅふ

日常

にちじょう

FOR ADULT



そしてゆるやかな

南国鎮守府の
なんごくちんじゆふ

日常
にちじょう

まえがき

去年の年末辺りから地球を守るために宇宙人相手に戦っておりまして、年が明けてからは怪物相手に狩りにいそしんでおりました。いやまあ、もちろん色々優先すべき事の台間について話なんですけど、いちいちこう書かないと24時間遊び惚けていると思う人がいて困ります。そんな訳があるから^^;

しかしその時々で楽しんでいる物に創作意欲が左右されるのは歴然とした事実。今回の本を「地球防衛軍」が「モンハンワールド」のネタでやるうかと割と悩みました。

なぜに結局その辺のネタをあきらめて艦これで行く事にしたかということ、モンハンも防衛軍も作画に異様に手間がかかる上に、おっばいやら尻やらの出番が無さげだったからです。

まあモンハンの相棒が絶妙に色気と縁遠いキャラデゲだったり、防衛軍はカエルやらベブシマンやら、これまたダイバーの姉ちゃんたちの尻を瞬時に忘れる悪夢のような敵がてんこ盛り。緑の蟻とかガチで夢に見たわ！いや楽しかったから良いんですが。

今回は心を癒すべくおっばいっばい描こうと思って艦これです。ここ2回分の鬱憤を晴らしてやるうと思います。

鎮守府の艦編成やら呉の提督の軽さやらが疑問な方は、ぜひシリーズのバックナンバーをお読みください。お楽しみいただければ幸いです。

南国鎮守府
司令部

あはははは！

いやー
長生きは
するもんだね！

キミがうるたえる
姿を観れる日が
来ようとは！

笑い事じゃ
ないですよ！

本当に怖かったん
ですから！！

いや
すまない！

だが僕の言った
通りだったろう？

むす



提督が重傷!?

あ〜……

これか
かたが
おまけ

たぶん彼には
バケツが効くと
思うよ!

まさか……

あんな助言が
効果あるなんて

たぶん
バケツが
効くよ!

たぶん……



てっきり
からかわれて
いるのかと

いやだなあ!
僕はいつでも
まじめだってば

× × ×



ともかく!

改めてお礼は
申し上げます!





おっ...おいつ!

ぬっ...ぬっ...

俺は
まだっ.....

ぬっ
ちゅっ

ぬっ
ちゅっ

ぬっ
ちゅっ

回復したと
いうわけでは
なくてだな.....

そしてゆるやかな 南国鎮守府の日常



もう少しだけ
休ませては
もらえない
ものか!?

悪い提案
ではないと
思うが.....



いや!!

提督ウソつき
だもん!!

ケガしないって
約束したのにつ!!



つ...つまり
死ぬほど
疲れている
のだ!

そこを
理解して...!!



そりや多少の
負傷はしたが
こうして
無事に.....

死んじやったと
思ったって
鳳翔さんが
言ってたもん!!



おちんちん
こんなに元気!

むー...

説得力
無い!

あたり
まえだっ!!

お前の胸に
何時間埋もれて
いたと思ってる!?

.....わかった!



なら違う所に
埋めちゃうん
だから!

まじ.....
まじ.....

ちゅっ



.....ジュリ...!

ジュリ...

ジュリ...!

ジュリ...

ジュリ...

ジュリ...!

ジュリ...

ジュリ...

根本まで
一気に……

しかも
触られても
いないのに

ドロドロ
ではないか!!

お前やっぱり……

……の……

ド変態
なのだな!!

う……
い……
い……

あ……
あ……
あ……

……

……

蕩けきった
顔をして……

腔内から
えぐられるのが
そんなに嬉しいか!?

先ほども言ったが
俺は疲れている!

射精して欲し
ければお前が
動くように!

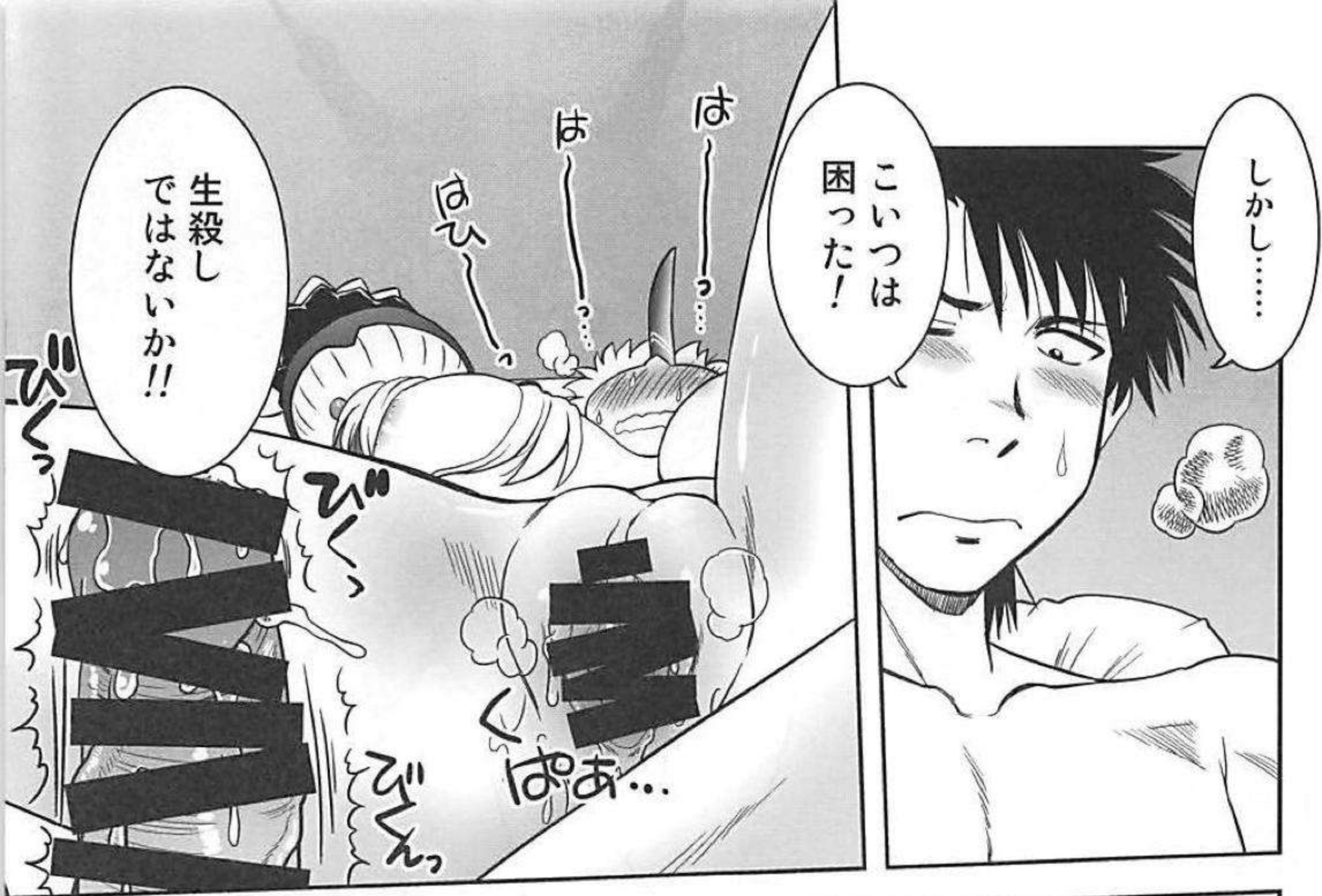






なんとというか
ダイナミックに
イクんだな
お前は！





しかし……

こいつは
困った!

生殺し
ではないか!!

は
は

は

はあ...

びん

びん


びん



ははははー

それは
大変ねえ?





それなら
間違いなく
私の出番よね？

うむ！
さすが
艦隊旗艦！

To Be Continued.

あとがき

2000年ほど前の偉い人のお言葉です。
曰く、「人が死ぬ日は生まれた日に優る」とか。
何言ってんだコイツと思ったものです。
生きてる方が良いに決まってるじゃないか。
何を達観し切ったことを言っているのだ。

4月の半ば、桜も散り切り連日の夏日が報じられていたある日、
僕の親父が逝きました。

自分が身内を送る立場になって、
上記の言葉を改めて考える機会を得ました。
なるほど、あの言葉は残された人たちのためにあったのが。

ようやくそこに考えが至りました。
親父を送るのに集まってくれた人たち、
その8割の人達を、僕は知らなかった。
もちろん大半の人達も僕を初めて目撃した。
人の生活に、人生に触れるという事は、
その人の人生の一部になるという事だ。
僕は親父という人間の、人生の一部だ。
葬送の場に集ってくれた人たちも、僕の知らない親父の人生の一部だった。
皆、お互いに知らなかった親父の人生の一部に触れることが出来た。
知ることが出来た。

残される人間にとって、これはとても重要なことだ。

晩年、親父には新しくできた友人がいた。
認識がつつろになっていた親父が、名前を聞いただけで
涙ぐむほど、心通わせた親友がいた。
僕はそれを親父の死の直前まで知らなかった。
その人に会って、話し合うことで、僕は知らなかった
親父の人生の一面を知ることが出来た。
親父の友人に、彼の知らなかった親父の人生の一面、
僕という存在を知ってもらう事が出来た。
それはとても大事なことだ。重要なことだ。
素晴らしいことだ。

その機会を、親父を送ったあの日、得ることができた。

ならば、親父を送ったあの日は、良い日だったのだ。

良い事言うじゃないか、2000年前の人よw
あの日は、良い日だったよ。



奥付

2018・04.30 初版発行
企画・制作 謎の会
mail:nazotu@gmail.com

印刷 (有)二モ印刷工房様

2018.04 謎の会PRESETS

